

不妊症とは、生殖年齢にある男女が妊娠を希望し、ある一定期間避妊することなく性交渉を行っているにもかかわらず、妊娠が成立しない場合を不妊といいます。妊娠を希望している健常な夫婦であれば、1年以内に90%が妊娠に至ります。よって、一定期間とは一般的に1年以上と考えられ、妊娠を希望し医学的な検査と治療を希望する場合を「不妊症」と定義されています。

不妊の原因が男性にある場合を「男性不妊症」、女性にある場合を「女性不妊症」と分類されます。性別による不妊原因の比率は、男性因子のみ24%、女性因子のみ41%、男女に原因があり24%、原因不明11%と男性側にも約48%程度原因があります。

女性の場合、加齢とともに妊娠率が低下することが報告されていますが、これは年齢上昇に伴う卵子の「数の減少」と「質の低下」が原因とされています。女性不妊症の割合は20歳代までは10%未満ですが、30歳代では30%、40歳以降では60%以上が不妊症といわれています。

女性の年齢が38歳前後からは妊孕能が急速に低下するので、30歳代前半までには子づくりを考える、あるいは子づくりのための医療を受けることが望めます。(日本生殖医学会編「生殖医療の必修知識」より)。 みらいウィメンズクリニック 院長 荻原弘光